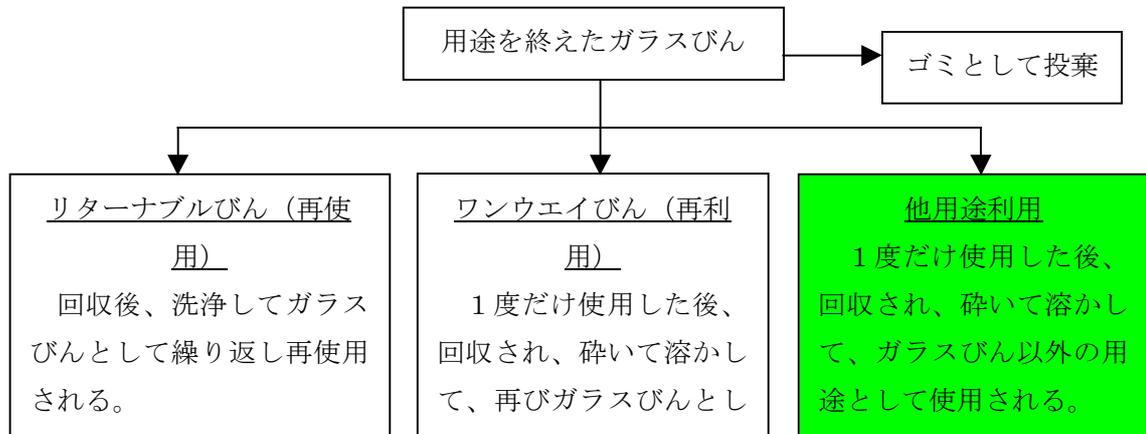


## < ガラスびんを他の用途に利用する >

現在、その用途を終えたガラスびんの「ゆくえ」は、主に次のようになっています。



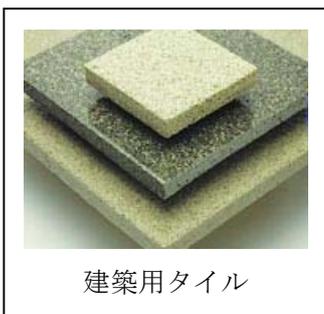
ここでは、ガラスびんの他用途利用について見ていきましょう。

1997年に施行された「容器包装リサイクル法」では、あきびんを分別収集する際に、少なくとも「無色・茶色・その他の色」の3色に分けることが定められました。そこで注目されるのが、新しいびんの原料として再利用しにくい「その他の色」のびんです。これらは、リターナブル（再利用）やワンウェイ（再利用）の対象になりにくく、これまでゴミとして埋め立ての対象とされてきましたが、これをガラスびんの原料以外への他の用途に利用することが、積極的に行われるようになってきました。



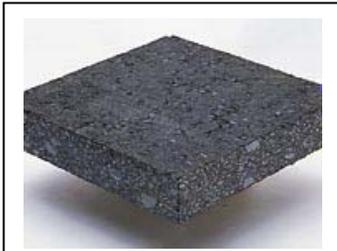
### ① ガラス原料

ガラスびんの原料以外に、安定的に利用されているのがガラス短繊維で、グラスウールといわれ、断熱材や吸音材として使用されています。現在最も多く再生されています。



### ② 建築・土木材料

ガラスびんを細かく砕いたカレットの混入により、すべり抵抗や透水性を発揮するタイルやブロックをはじめ、耐熱性や耐久性に優れた軽量骨材としても実用化されています。また土木作業後の埋め戻し材としても利用されています。



アスファルト

### ③ 舗装材料

アスファルト舗装や公園の遊歩道などのカラー舗装に使う骨材として、利用できます。とくにアスファルト舗装では、無くなりつつある天然資源の代替品として、表層や基盤に使用されます。また、表層部のカレットは車のライトに反射し、夜間の交通安全にも役立つという効果もあります。また基盤材として利用する場合は溶出がないことがメリットになります。



アスファルト舗装へのカレットの利用例

### ④ 工業用品

ガラスのもっている硬質な特性を利用することで研磨材に。また水環境に対するニーズに応える用途として、ろ過材への活用も期待されています。

### ⑤ 海洋関係

カレットのエッジ（角）を取り除き、天然の砂そっくりに加工することで、人工砂浜を開発したり、波で浸食された砂浜の補修にも利用が考えられています。

### ⑥ 植物関係

園芸用の床砂への利用も可能です。ガーデニングの人気と相まって、一般消費者に対する市場が大きく広がる可能性があります。

ガラスびんは、ガラスがもっている輝きや加工性を生かすことにより、様々な用途への利用の可能性を持っており、徐々に現実化されていますが、まだまだ多用途利用は初期段階にあります。技術的にも経済的にも、そして回収から使用へ至る物流面からも、今後リサイクルシステムを構築することにより、さらに用途を拡大していくことができるのです。